

第一回「精神的な向上心を求めることは善か？」

場所：クラインプルー

司会、文責：堀越

★議事メモ★

<サマリ> 向上心と競争心の類似点、相違点を出発点に、心の中の物差し、他者との比較、社会ルールやシステムなどが、向上心とどう関わり合うのかについて、参加者同士が異なる意見を披露し合い、考え、語りつくして、濃密なひとときを過ごした。

<全体> 「精神的な向上心を求めることは善か？」を考えるに当たって、以下に分解して考えることを司会から提案した：

- ① 向上心とは何か？
- ② 求める相手は誰か？
- ③ 「向上心の指向対象は精神という限定がある」が、これは自己回帰的問いか？
- ④ 善とは何か？（時間があれば）

しかし、残念ながら、向上心とは何か？の問いに議論が白熱し、この問題だけに集中討議する結果となった。

- 1) 心の中で向上心を意識する際に羅針盤や物差しを想定する。その際の物差しを他者や社会と共有する・せざるを得ないという意味において、向上心は結果的に競争心と同じものではないのか。競争心とは異なるか？という疑問について、以下2つの意見に集約された：
  - A) 心の中とは言え、人間は社会的な存在であることから逃れられないため、他者性はどうしても付きまとい、それが大前提である。しかし、向上心と競争心は、同じものではなく、全く別もの、独立したものとして考えるべきである。競争心は社会ルール、システムに依存する。一方、向上心はもっと原初的な不安感や嫌悪感からの回避思考に根源があるとも考えられ、別ものである。
  - B) 心の持ちようとして、競争心と密接に関連付けた向上心を持つ個人や場合もあり得る。心の中の物差しが他者や社会と共有、比較をされないままでは、向上という方向性そのものが自分で理解・納得されないはず。
    - A)にある考え、言わば「ひとりよがり」な物差しを用いたものを向上と呼ぶのか。そうなら、何でも向上、向上心と呼べるようになるのではないか。
- 2) 向上心は先天的か後天的か？という疑問に移った。これに対しては、以下の2つの意見が出され、先天、後天両面の影響を受けるとの結論となった：
  - C) 向上心は、好奇心にその根源があるとも考えられる。そうであるなら、「向上心が先天的である」と考えることができる。
  - D) 向上心には、長期的なビジョンを持ち、持続的な努力を要することから、後天的な素養に根ざしていると考えられる。
- 3) 再び、向上心を測る心の中の「物差し」について議論した。向上心を測る心の中の物差しに対する他者・社会への考え方は、以下の2つの意見に分かれた：
  - E) 他者と共有したり、比較をするべき。共有・比較をしないと、その行為や思考が心の中で向上と理解できない、考えられない。
  - F) 他者との共有に馴染まない、比較をできない場合が想定される（例：野生白鳥へのえさを自発的にやり始めた行為や、継続した行為 {行為そのものは何でも良い} を向上と考えるか否かなど）ため、全く独立でよい。

以上